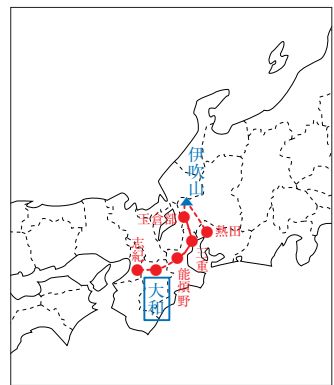




白鳥になった日本武尊

都のある大和に帰りたい一心で前進みになり、日本武尊は三重の村にたどり着きました。足はすつかりはれがあり、三重に曲げた餅のようになっていましたので、そこを三重というのです。

尊はさらにお歩きになり、鈴鹿山脈の麓の能傾野という所に着いた時、故郷の大和をおしのびになつて歌われました。

倭は 国のまほろば たたなづく
青垣 山隠れる 倭し美し

これは「大和国は、大変すぐれたよい国だ。青い垣根が幾重にも重なり合っているように山に囲まれている。大和国は美しいなあ。」という意味です。

歌を歌われた後、尊はご病気が急に重くなり、美夜受比売のもとに置いてきた草薙剣を気になかなか、お隠れになりました。

大和におられた后や御子たちは、みな能傾野に下つて来て御陵を造り、泣きしのべられました。すると、尊は大きな白鳥となって舞い上がり、河内国（大阪府）の志紀まで飛んで行かれました。

そこにも御陵を造つて白鳥御陵と名付けましたが、白鳥は、さらに天高く飛び去って行かれました。

考えてみよう

○ふるさと

○草薙の剣

○白鳥のゆくへ